

駿府城公園の歴史

徳川家康（幼名：松平竹千代）は、今川氏の人質として過ごした幼年期、壮年期、晩年の期間を駿府（現静岡市街地）で過ごしました。

天下統一を果たした家康は、將軍職を息子・秀忠に譲り大御所となり、駿府に拠点を置くことを決めました。

慶長12（1607）年、諸国の大名に命じて駿府城の普請を開始し、輪郭式で石垣を廻らせた三重の堀（内側から本丸・二ノ丸・三ノ丸）を持ち、本丸の北西には5層7階の勇壮な天守を配置した城を築かせました。

駿府は、江戸をしのぐ政治・経済・文化の中心として黄金時代を迎えます。

家康の死後、寛永12（1635）年の火災により天守等のほとんどの建物が焼失し、櫓、門等の建物は再建されましたが天守は再建されませんでした。以後江戸時代の駿府城は、建物の規模も次第に縮小していきます。

明治時代になると、歩兵34連隊の誘致に伴い本丸堀は埋められ、三ノ丸は官庁や学校などの公共用地となりました。

戦後、本丸、二ノ丸部分は公園として整備され、市民の憩いの場となっています。桜の名所としても知られ、春には数百年の桜が彩り、5月にはあざやかなツツジが楽しめます。

また、東御門・巽櫓、坤櫓が伝統的な木造工法によって復元され、内部では駿府城の絵図や復元資料・出土品などを展示しています。



1 東御門



2 巽櫓



3 坤櫓



4 紅葉山庭園



6 家康公手植のミカン



7 本丸堀(内堀)



8 三ノ丸水路



9 石垣刻印



10 葵の御紋花壇



11 富士見芝生広場



5 晩年の家康公像

大御所時代の家康を表した銅像。旧静岡駅前には「竹千代君像」壮年時代の家康公像がおります。

四季彩々、駿河の趣に出逢う園

紅葉山庭園

もみじやまていえん

紅葉山庭園は、駿府城公園の歴史的背景を活かし、城郭の大名庭園に見られるような、遊びと楽しさを基調として創られました。

駿河の国の名勝を織り込んだ4つの庭を中心とし、春は桜、夏は紫陽花、秋は紅葉、冬は椿など四季折々の表情を味わいながら、実際の風景をも心に想う、そんな意匠をもった庭園を目指しました。

庭園に面した立礼亭「もみじ亭」では、早茶が楽しめます。心潤す門かきで美しい駿河の国をじっくりと鑑賞下さい。



山の庭
駿河の国の象徴富士山や安倍川の流れが表現された山廻りの庭。中庭の展望台から山脈全体が見渡せます。



花の庭
牡丹、薔薇や色とりどりの花々が咲き誇る花の庭。

駿府城二ノ丸

坤櫓

ひこうりょう やぐら

坤櫓は、駿府城二ノ丸の南西の角に位置する櫓です。

江戸時代は方位に干支を用いており、南西の角方を坤と呼びました。安政元年の安政大地震で崩壊したため、160年ぶりに伝統的な木造工法を用いて復元されました。

内部からは、二層三階構造を見通すことができ、「時空の間」「手解きの間」「見渡しの間」「記憶の間」「変幻の間」の5つの間に分かれています。

「時空の間」では、最新の映像技術を用いた「今昔スコープ『駿府時空鏡』」によって、駿府城の天守閣や城下の街並みなどを3D映像で体験できます。



東御門・巽櫓

ひがしごもん たつみやぐら

東御門は、駿府城二ノ丸の東に位置する櫓門です。

平成8年に日本建築の伝統工法にのっとり建てられました。要所に石落とし、鉄砲穴開、矢狭間等をもつ堅固な守りの実戦的な門で、戦国時代の面影を残しています。

また、平成元年に復元された巽櫓は、二層三重の櫓門で全国で唯一の櫓建築とも例の少ないし字窓の平面をもち、海内では、駿府城公園内より発掘された資料の展示や家康公が幼少期の人質時代に教を受けたことなどを、随筆の部屋を復元した「竹千代手習い」の間などをご覧いただけます。

